

令和3年度



「北白川だより」


学校評価

臨時号

令和3年9月15日  
京都市立北白川小学校  
校長 藤林 弘之

令和3年度 学校教育目標

『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』  
～目標の実現に向け努力する意欲・態度と問題解決能力を培う～



御所花車

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。学校評価は児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群とB群で「できている」、C群とD群で「できていない」と大きく2つに分けて分析しています。

本号では7月に行いました学校評価アンケートの結果をお知らせします。表面には＜学習面＞、裏面には＜生活面＞を載せています。表のAは「よくできている」Bは「だいたいできている」Cは「あまりできていない」Dは「できていない」を示しています。

【前期 学習面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	がくしゅうのめあてがたっせいできている。	46.7%	43.0%	8.1%	2.1%	我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	27.3%	65.9%	6.5%	0.3%	確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	21.1%	73.7%	5.3%	0.0%
②	せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	57.5%	32.5%	7.9%	2.1%	我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができている。	20.3%	59.3%	19.8%	0.5%	友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣をつけるように取り組んでいる。	31.6%	68.4%	0.0%	0.0%
③	じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。	45.4%	30.2%	18.4%	6.0%	我が子は、進んで自分の考えを話すことができている。	23.1%	56.5%	19.6%	0.8%	授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	21.1%	68.4%	10.5%	0.0%
④	よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについている。	56.7%	31.8%	10.2%	1.3%	我が子には、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	29.7%	58.4%	10.8%	1.1%	基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	31.6%	68.4%	0.0%	0.0%
⑤	いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	57.4%	25.5%	14.5%	2.6%	我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができている。	23.5%	44.6%	28.4%	3.5%	家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	21.1%	68.4%	10.5%	0.0%
⑥	すすんでどくしよをしている。	54.9%	24.4%	12.6%	8.1%	我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	32.0%	45.5%	19.5%	3.0%	読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	26.3%	52.6%	21.1%	0.0%
⑦	じぶんからすすんでうんどうをしている。	61.4%	21.3%	10.0%	7.3%	我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	31.6%	40.8%	24.9%	2.7%	進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	31.6%	52.6%	15.8%	0.0%

【①「がくしゅうのめあてがたっせいできている。」の項目より】

児童の「できている」が約 90%、保護者は約 93%と、学習面では1番高い結果となりました。コロナ禍でもできることを工夫しながら学習活動を進めてきた成果と考えられます。支援員や担任以外の教職員たちの支援のもと、担任がなるべく授業に集中できるように組織的に取り組み、担任が授業をしっかり準備して丁寧に行ってきた1学期だったと思います。

しかし、まだ約1割の児童は、「できていない」と回答しています。「めあて」は与えられるのではなく、「めあて」の裏にある「問い」の共有が大切です。「なぜ？」をはじめ、児童が知りたくなるような、考えたくなるように授業を今後も工夫していきます。ご家庭でも、お子さまの素朴な疑問を大切にいただき、答えは与えられるものではなく、自分で調べたり考えたりしていけるよう、お力添えいただけたらと思います。

【③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをひょうげんしている。」の項目より】

児童の「できている」が約 76%と、学習面では1番低い結果でした。昨年度の同時期からは、約 3%の上昇が見られますが、4人に1人は、進んで自分の考えを表現できていないこととなります。何でも主張することが良いというわけではなく、熟考している間に授業が進むこともあるため、本項目を評価することは難しい面もあります。

しかし、学校では、失敗を恐れ、自分の行動や考えに自信がもてずに、これで良いかを担任に確認する児童をよく見かけます。大人・子ども関係なく、人間誰しも失敗をし、失敗から学んで成長するため、失敗を責めるのではなく、失敗した後に頑張れる環境にすることが大切だと思います。コロナ禍で大人も余裕をもてない日々が続きますが、学校・ご家庭・地域が協力し、温かい目で子どもたちの成長を見守っていけるようにしていきたいと思います。

【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。」の項目より】

「できている」が、児童は約 83%でした。1年前と比較すると A 群が 5%増えましたが C 群も 4%増え、結果、全体として 4%の低下となりました。一方、保護者は約 68%でした。保護者からすると、「自分から」という点で低くなったのではないのでしょうか。環境のデジタル化が進む中、例えば、メディアでの娯楽はいつでもどこでも気軽に楽しめ、興味を引くように次から次に仕掛けられています。「ちょっとだけ」「あと1つ」と流されがちになります。優先順位を考え、限りある時間を上手に使えるよう、今後とも声かけをよろしくお願いいたします。

【⑦「じぶんからすすんでうんどうをしている。」の項目より】

児童の「できている」が約 83%と、昨年度に比べ、約 6%の向上が見られました。1年前は、臨時休校や自粛、制限等、特に厳しく、運動しにくかった環境にありましたが、今年度、特に、担任が休み時間に運動場に出て、児童と一緒に汗を流しながら遊ぶ姿をよく見かけます。また、ご家庭のご理解・ご協力のもと、1学期のうちに「北白川スポーツの日」や水泳学習を実施できたことも昨年度と違って大きかったと感じます。夏は、コロナウイルスだけではなく、熱中症にも気をつけなければなりませんが、運動は生活リズムや心身のバランスを保つためにも大切です。家の中でできる運動もありますので、ご家庭でも引き続き意識していただけたらと思います。

保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

【前期 生活面】															
	児 童	A	B	C	D	保護者	A	B	C	D	教職員	A	B	C	D
①	じぶんからすすんであいさつをしている。	58.5%	34.6%	5.5%	1.3%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	36.5%	56.8%	6.8%	0.0%	自分から進んで気持ちのよい挨拶ができるように働きかけている。	47.8%	52.2%	0.0%	0.0%
②	いえやがっこうのルールをまもっている。	42.5%	46.7%	9.2%	1.6%	我が家では、家や学校のルールを守るように働きかけている。	28.5%	64.2%	6.5%	0.8%	家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	52.2%	47.8%	0.0%	0.0%
③	そうじやかたづけをきちんとしている。	43.9%	40.8%	12.4%	2.9%	我が家では、掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	12.4%	45.1%	40.0%	2.4%	自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	47.8%	43.5%	8.7%	0.0%
④	こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。	47.2%	35.7%	10.8%	6.3%	我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	20.5%	68.4%	10.8%	0.3%	子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%
⑤	だれにたいしてもていねいなことばではなしている。	30.5%	45.8%	19.5%	4.2%	我が家では、丁寧な言葉づかいで話すように心掛けている。	13.3%	61.0%	25.2%	0.5%	誰に対しても丁寧な言葉遣いで話すよう指導するとともに、自らも実践している。	26.1%	65.2%	8.7%	0.0%
⑥	にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	41.7%	33.1%	19.4%	5.8%	我が家では、苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	17.8%	65.4%	15.9%	0.8%	子ども達が、苦手なことにも前向きに取り組めるような手立てを、常に意識して実践している。	27.3%	59.1%	13.6%	0.0%
⑦	じぶんのよいところがいえる。	39.4%	29.4%	18.1%	13.1%	我が家では、子どものよさを認め、伝えるようにしている。	32.5%	58.0%	9.5%	0.0%	子どものよさを認め、積極的に伝えるようにしている。	30.4%	65.2%	4.3%	0.0%

【①「じぶんからすすんであいさつをしている。」の項目より】

生活面の7項目の中では、「できている」が1番高く、児童・保護者ともに、約 93%でした。直接授業していない者も含め、教職員も100%であり、学校・家庭・地域が非常に高い意識で取り組んできた成果であると考えられます。地域で見守っていただいている方々には、積極的に声をかけていただき、保護者の方にもお子さまの見本となるような接し方をしていただき、ありがとうございます。学校でも、引き続き指導を続けていきたいと考えています。

【②「いえやがっこうのルールをまもっている。」の項目より】

児童の「できている」が約 89%と、比較的高い結果ではありましたが、1年前と比べると約 3%の低下が見られました。自分も周りの人も安全に気持ちよく過ごせるように、ルールはあります。ルールを破って楽しむより、ルールの中で工夫して楽しむ力をつけていってほしいと思います。ルールを破ると、周りに迷惑をかけることがあるので、100%になるように今後も取り組んでいきたいと思います。ご家庭でも、声かけ等、よろしく願いいたします。

【④「こまったことは、せんせいやかぞくにそうだんしている。」の項目より】

児童の「できている」が約83%と、1年前と比べると約3%の向上が見られました。教職員が一人一人を大切に組みんできた成果が徐々に表れていると思います。一方で、まだまだ相談できない児童がいることも事実です。学校でも家庭でも気軽に相談できるよう、日ごろからのコミュニケーションを大切にしていけたらと思います。

【⑦「じぶんのよいところがいえる。」の項目より】

生活面では1番低く、児童の「できている」は約 69%でした。大人は9割以上、子どもたちの良さを認めて伝えることが「できている」のに、昨年度と同様、本項目が課題として挙げられます。大人もそうですが、他人と比べると、なかなか自分で自分の良さを認識することができません。児童にとって「よいところ」は自分の当たり前で、「よいところ」という認識がないのかもしれませんが。また、「よいところ」もさらに上を目指したり求められたりすると、認識として薄れるのかもしれませんが。今後、定義が曖昧な自分の「よいところ」について、向き合う時間を意識的につくることも大切だと思います。ご家庭でも、節目での振り返り等を利用して、一度、お子さまの「よいところ」について話し合われてみてはいかがでしょうか。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「お子さまの自立に向けて心掛けていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。一部になりますが、まとめて紹介させていただきます。

- ・家族の一員として、家の手伝いをさせている(役割を与えている)。
- ・自分で考えさせたり、判断させたり、説明させたりしている。子どもの意思を尊重するようにしている。
- ・なるべく手を貸さず、自分のことは自分でさせる。
- ・先回りして動くのではなく、子どもが言って(求めて)から手を貸す。
- ・子どもがやりたいことは、まず受け止めたりやらせたりする。一緒に楽しむ。途中で口を出さずに、最後まで見守る。
- ・マナーや挨拶・礼を大切にしている。
- ・声かけをしたり、きっかけをつくったりしている。
- ・家ではリラックスできるようにしている。
- ・自分で考える力をつけるために、テレビや本等、知的なものが身近にある環境を心掛けている。
- ・子どものペースやタイミングを大切にする。
- ・自分で予定を考え、確認するようにしている。自分で考えさせて、責任をもたせる。
- ・自立に向けて、今は土台づくりとして学校の勉強や宿題、習い事等を継続することを大切にしている。
- ・できて当たり前ではなく、努力を認める。機会をみて褒める。自信をもてるように心掛けている。
- ・自分で自分の行動を評価できるように、どうだったかを聞く。
- ・その時がきたら勇気をもって一步を踏み出せるように、励ます。
- ・苦手なことにも挑戦させる。諦めずに取り組めるように声をかける。
- ・子どもが分からなくても、(親が答えを教えず)自分で調べさせたり考えさせたりする。
- ・すべきことを親の命令ではなく、促したり自分で考えさせたりする。
- ・社会の仕組みや職業、社会的問題について話す。
- ・いろいろな考え方を得るため、家族や家族以外の人たちとのコミュニケーションを大切にしている。

自分で考えることや行動すること、それを大人は見守ることが大切だという考えが多かったです。声をかけるのかかけないのか、手を貸すのか貸さないのか、成長段階や個人によって違うところも難しいです。学校でも、先回りしてつい助けてしまうことがあります。困ってはいけなのではなく、困ったときにどうするか生きるための力です。大人は環境を整え、時には見守り、粘り強く子どもに寄り添い、伴走していくことが大切だと改めて感じました。学校でも、今後の参考にさせていただきます。